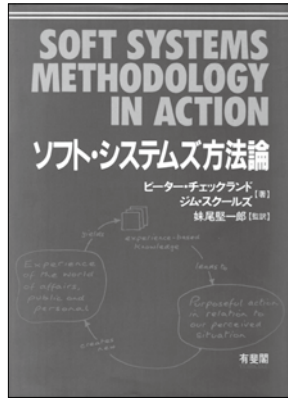


ソフトウェア開発上流工程における ビッグピクチャ



ソフト・システムズ方法論

ピーター・チェックランド
ジム・スクールズ 著
妹尾 堅一郎 監訳

ISBN: 978-4-641-07573-5
株式会社有斐閣刊
A5判・430頁
定価 5,040円 (税込)
1994年7月刊

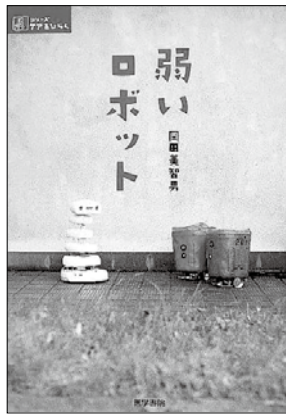
もう10年以上前になるが、国際的NPOの日本事務局長をしていた。組織運営に苦慮していた時に偶然この本に出会った。もともと本書は情報理論に基づくソフトウェア・システム開発のためのものであったが、組織はシステムであり、組織構造、ステークホルダ、諸活動の関連などを見直すには格好の手法であり、Davenportのプロセス・イノベーション (Process Innovation, T.D. Davenport, Harvard Business Press, 1993) と共に非常に助けになった。

最近、ソフトウェア・システムの高信頼性が議論されるにあたり、ソフトウェア開発ライフサイクルの上流あるいは超上流に目が向けられるようになり、本書が引用され

ることが多くなったように感じている。この本の翻訳版の発行が1994年で約20年前のことである。オリジナルのソフト・システムズ方法論 (SSM と以降省略) そのものは、1970年代に開発されたということだからもう40年。ソフトウェア開発における方法論の総称としてソフトウェア工学という名称が世に出たのは1960年代終わりだからほぼ同じ年数を経た方法論である。本書では、SSM とは何かに加えて、SSM の産業界、国家医療制度、官庁への適用例が紹介されている。また、他の研究事例も紹介されており、何回も読み直したい本の一つである。

(新谷 勝利)

ゴミ箱ロボットでこれまでの製品企画を リフレッシュ



弱いロボット

岡田 美智男 著

ISBN: 978-4-260-01673-5
医学書院刊
A5判・224頁
定価 2,100円 (税込)
2012年09月刊

日本のロボットは国際的にも産業競争力を持つと言われている。近年では、サービスロボットや自動運転などニュースを賑やかさせている。いずれも高度なセンシング技術を利用し、高度な機能を実現している。本書で紹介されるロボットは、これらの先進的技術を利用したロボットではない。なんとソーシャルなスキルを持つロボットなのである。

掃除ロボットは日本でも大ヒットしたが、本書に登場する代表的ロボットはゴミ箱ロボットである。しかしゴミを拾う機能はない。掃除するロボットに求められる機能は、ゴミを見つけゴミを拾うことである。これらはセンシング技術を駆使することで実現できるが、高度な認識処理やメカの機構が必要となる。ゴミ箱ロボットは、ゴミを探してトボトボ歩きまわり、ゴミを見つけると人に助けを求めように体をゆらす。そしてゴミ

を拾ってゴミ箱に入れてもらうと会釈のような動きをする。単体でなく他者や環境も踏まえたシステム企画・設計は、今後のシステム開発において重要なキーワードであろう。

ゴミ箱ロボットのセンサーの数などでは語れない。自分でできない機能を他者に委ね、協力して掃除する。ソーシャルな関係のなかで、ロボットと人が共存する。ゴミを拾えないロボットがいるから、ゴミがないようにしておく。

何でもインターネットに繋げ、リッチなUIで操作可能にするのではなく、何が利用者にとって心地よいかを考えた製品やシステム企画をしたい。

本書はこれまでの性能競争から「ことづくり」コンセプトメイキングに転換するため、思考のリフレッシュにお勧めの書籍である。

(渡辺 登)